

## 地歴・公民科 資料 No. 74

もくじ  
巻頭

東北アジアの過去・現在・未来に向き合う中高生  
討論記録から歴史認識・社会認識を読む

／原 幸夫 ..... 1

トピックス 縄文時代はいつから？／小林 謙一 ..... 6  
実践報告 近現代史を中心とした授業実践

／百々 稔 ..... 10

シリーズ 図版で読み解く世界史  
「清明上河図」から読み解く唐宋変革／青木 敦 .... 14

新課程用教科書のご案内 ..... 17

図書紹介 ..... 24

### 巻頭

#### 日中韓青少年歴史体験キャンプ

#### 東北アジアの過去・現在・未来に向き合う中高生 討論記録から歴史認識・社会認識を読む

大阪府立河南高校教諭 原 幸夫

##### 東北アジア隣国の友人をつくる

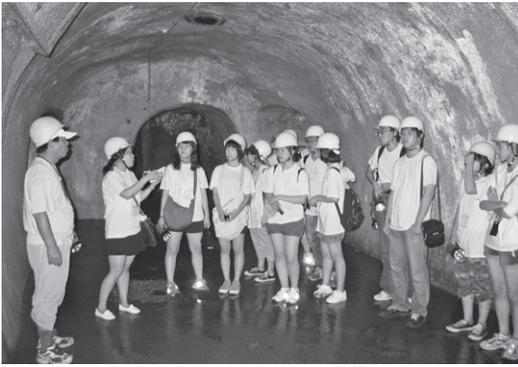
2011年の8月、第10回目を迎えた「日中韓青少年歴史体験キャンプ」は3国の中高生らおよそ100名の参加のもと韓国の仁川広域市（以下、仁川と略）で開催されました。2日目の江華島フィールドワークでは、江華民統線村に入り漢江対岸の北朝鮮を眺望するという貴重な体験をする機会を得ました。その夜の討論で3国の中高生たちは「北朝鮮のすぐ近くまで行っても向こうへは行けない現実が悲しい」（韓国の参加者）、「中国では北朝鮮の情報があまりないので、とても不思議な気がした」（中国）、「有刺鉄線を見て縛られているという印象を持った」（日本）、などと感想をのべあい、「朝鮮戦争」未終結、朝鮮民族分断の冷厳な現状について交流しました。特に今回は福島県から大学生（震災当時は高校生）と中学生が参加して東日本大震災・福島原発被災事故について特別報告をおこない、参加者は活発

な交流を行いました。

一昨年の第9回キャンプは日本の千葉県南房総地域で開催され、地元のNPO法人・安房文化遺産フォーラム等の協力をいただきながら、東北アジアの東端における近世以来の海の交流と東北アジア100年（韓国併合100年にあたる）の歴史を学びあいま



旧仁川市内のオリエンテーリングに出発（2011年8月）



館山市の戦争遺跡の128高地地下壕を見学（2010年8月）した。

本稿では、東北アジア3国の青少年が集う歴史体験キャンプの誕生の経緯と10年のあゆみを簡単にふりかえり、一昨年の千葉県・安房キャンプの討論の記録から3国青少年の歴史認識・社会認識の現状や討論による変化をたどることにします。そしてそこから見えてくる日本の教育の課題も考えてみたいと思います。

## 歴史体験キャンプの10年

2001年に歴史教科書問題が起きたとき、日中韓3国の歴史研究者や市民、教員らが集う「歴史認識と東アジアの平和」フォーラムを毎年開催することを決めましたが、その後韓国の市民団体「アジアの平和と歴史教育連帯」が提案して2002年、日韓WCの年に日韓2カ国の青少年歴史キャンプがスタートしました。2004年の第3回キャンプのときに日中韓3国の中高生がそろった3国キャンプとなり、2011年の仁川キャンプまで10年の歴史を刻んできました。

当キャンプは毎年3国間で持ち回りの開催にしており、日本では第2回（東京都・京都市・広島市を移動）、第5回（沖縄県）、第9回（千葉県南房総地域）のキャンプが開催されました。日本の主催団体は「子どもと教科書全国ネット21」が中心となって結成した実行委員会で、毎回全国に向けて参加をよびかけ各地から中高生、大学生が集っています。

キャンプの目的は、3国青少年の歴史認識の共有をめざし友好を深めることであり、そのプログラムは東北アジア地域の歴史や文化、近現代の日本の侵略と植民地支配の歴史をフィールドワークや証言、講演などとおして共同学習し、それをもとに討

論・対話をおこない、また文化交流も交えた楽しく充実したものとなっています。

この10年間、各キャンプに参加した3国の参加者たちは、話しあったり、一緒に遊んだ原体験のもとに話し合えばわかりあえる、理解しあえることを確信し、異文化に関心をよせながら共通の文化を持つ「アジア人」相互の友情を培ってきました。さらにキャンプがそれぞれの将来や生き方を深く考える機会となり、自国のあり方や教育の現実に対する問題意識を持ち、東北アジアの未来へのまなごしを向けることのできる刺激的な空間であったことは参加者の誰もが認めるところです。

私は2005年から日本スタッフに加わり、微力ながらキャンプの企画や運営、記録に携わってきました。日本国憲法の学習と平和の知力とのかかわりに関心を寄せていたことから、国際キャンプでの討論や交流の実践が東北アジアの歴史認識や平和力にどのような影響をもたらすのかといった問題意識も持ちながら活動をすすめてきました。

## 日中韓3国の中高生の討論

さて、2010年、5泊6日の安房キャンプに参加した3国の中高生92名は連日のフィールドワークの後、日中韓混合の5つの班に分散して3日間、計6時間の予定で班別討論をおこないました（通訳を入れて実施）。討論のテーマはその日のフィールドワークや講演の内容にそって、「南房総の戦争遺跡」、「かにた婦人の村」（婦人保護施設）、「城田すず子さんの思い」（婦人保護施設の入所者で元「従軍慰安婦」であったことをカミングアウトした日本人女性）、「安房の交流の歴史から学ぶもの」、「関東大震災における朝鮮人・中国人、社会主義者の虐殺はなぜおこったか」、「虐殺の掘り起こしと追悼・慰霊の取り組みの意味は何か」を設定しました。

以下、各班の討論の記録資料から、中高生の発言（あるいは発言の要旨）を討論の文脈から切り離して筆者の関心にそって分類し、それらについて一定の考察を試みてみました。【韓国A】【中国A】【日本A】などに続く文言は、それぞれ韓国、中国、日本の中高生の個人発言の要旨です。

## 知らなかったことを知ったとき

【韓国A】日本人の「慰安婦」が存在したこと、日本の参加者が「慰安婦」問題を知らないことに驚いた。【中国A】日本の参加者が「慰安婦」問題や加害の事実について知らない、日本の教科書にも載っていない。【韓国B】日本の多くの人が歴史の事実を知らないのが現状だから、加害の事実を無視しているわけではないとわかった。【中国B】日本は侵略戦争を起こしたが、日本人もいっぱい苦難を受けていることがわかった。【韓国C】マスコミ報道では日本で平和活動をしているのは少数だと聞いていたが、平和を求めて活動している人が多いことを知った。【中国C】日本人に対する認識が変わり、偏見がなくなった。花や自然を愛していて人間性も感じた。【中国D】それなのに、日本人はどうしてあのような戦争を起こしたのか。【日本A】加害の事実を知らないだけではすまない、ショックでもあり恥ずかしい。【日本B】日本（政府）は戦争のことを忘れさせようとしている。加害国としての責任を感じた。

中国、韓国の中高生は、①侵略の加害国と被害国という二項対立的な認識から、日本人のなかにも戦争被害をうけた人がおり加害者と同時に被害者であったという重層的な見方を得たこと、②今日の日本で侵略戦争の加害を認識し平和のために活動している日本人が多いことを知り、日本人の優しさ、誠実さにふれて、日本・日本人を多面的にみることができるようになったことが伺われます。同時に、③どうして「優しい日本人」が侵略戦争をおこしたのかという新たな疑問も抱くことになりました。④日本の中高生は、知らなかった侵略加害の諸事実に向き合い、個人としてやるせなさや国家の責任を感じて、とまどい葛藤したようすがわかります。

自国の教育やさまざまな情報にもとづく認識がこうした応答関係にある討論（あるいは対話）によって修正される過程がわかり、国境をこえた対話が青少年の認識形成の上で非常に重要な活動であることがわかります。

## 侵略戦争の記憶と歴史認識

【中国A】戦争はどちらも大変、民衆にとっては勝ち負けの問題でなく双方が被害を受ける。きちんと



各班の平和宣言プレゼンテーション（2010年8月）

と歴史を学んで考えていくことが平和につながる。【中国B】祖父母の世代から「中国人を虐殺したのは日本人だ」と伝えられ、今ではネットで流されている。日本人でも軍人の責任は重いが一般市民は悪くないと私は思う。【中国C】国民は戦争の被害者であり政府の政策は国民の幸せを左右する。【日本A】当時は軍政だった。子どもの頃からの教育で自分たちは（アジアの）上だという意識をうえつけられ、右翼などにあおられていったのだと思う。【日本B】広島で戦争は終わり、今は平和主義になっている。

中国の中高生は、①戦争の被害者は民衆であるという視点から発言し、政府の責任の重大さを指摘しています。日本の侵略を許した当時の中国の軍閥や国民党政府への批判を暗示しているようにも思えます。また、②戦争被害の国民の記憶（日本人による虐殺）と中国政府の歴史認識（市民と軍人、軍国主義を区分する）が並立しており、中国の人々の歴史認識に揺らぎを感じます。③日本の中高生は日本が東北アジアの近現代史において、日清戦争、日露戦争、アジア太平洋戦争をどのようにすすめていったのか、戦後がどのように展開されていったのかしっかりと理解できていないように思われます。

## 歴史の見方のちがいが、自国の教科書の記述

【中国A】日本の教科書は日本側の立場だけで書いており、事実を隠すのはよくない。【日本A】日本はまだ歴史を見なおすことができている。ドイツを見ならわねばならない。【日本B】日本の教科書は「慰安婦」「南京大虐殺」の記述は少ししかなく、「事実」を正確に知らないと歴史認識の溝は埋まらない。【中国B】中国の教科書にも関東大震災の大

これまでのキャンプの参加者数

| 次・年・開催地     | 日 本 |    | 中 国 |     | 韓 国 |   | 合 計 |    |
|-------------|-----|----|-----|-----|-----|---|-----|----|
|             | 中高  | 大  | 中高  | 大   | 中高  | 大 | 中高  | 大  |
| ③ 2004 アニヤン | 21  | 2  | 19  |     | 40  |   | 88  | 2  |
| ④ 2005 北京   | 9   | 1  | 38  |     | 50  |   | 97  | 1  |
| ⑤ 2006 沖縄   | 43  |    | 19  |     | 44  |   | 106 |    |
| ⑥ 2007 濟州島  | 22  | 7  | 36  | 5   | 43  | 9 | 101 | 21 |
| ⑦ 2008 南京   | 14  | 10 | 33  | 17  | 40  | 9 | 87  | 36 |
| ⑧ 2009 南海   |     |    |     | 中 止 |     |   |     |    |
| ⑨ 2010 安房   | 19  | 13 | 39  | 1   | 34  | 4 | 92  | 18 |
| ⑩ 2011 仁川   | 26  | 3  | 16  |     | 51  |   | 93  | 3  |

①②の参加者は省略、「大」は大学生・大学院生、スタッフ数は表示されず

虐殺については載っていない。【日本C】中国の教科書に（関東大震災時の朝鮮人の虐殺が）ないと聞いて驚いた。日本の教科書にも事実をしっかり書いてきちんと知ってこそ真心からの謝罪ができると思う。【韓国A】韓国の教科書では朝鮮人虐殺はあっても中国人、日本人の虐殺についてはない。「慰安婦」問題も朝鮮人以外の「慰安婦」については知らなかった。もっと正確に知るべきだ。【中国C】南京大虐殺事件について、中国の教科書は日本帝国主義の批判ばかりで、残酷な場面の写真や新聞の記事が載っている。【韓国B】「国史」「近現代史」の教科書には韓国の悪いところも隠さず客観的に記述されている。近現代史では中国と日本に関する記述は少ない。もっと増やしてほしい。【中国D】各国の政府の立場から教科書はつくられている。なぜ歴史を検討するのか。それは将来に向かっての教訓だから。3国の未来の交流と発展に役立つ。

3国の中高生は、日本の教科書の記述にたいする批判を通じて、自国の歴史認識や教科書の内容をふりかえり、教科書は各国政府の立場を反映しているという認識－事実の取り上げ方や歴史の見方が（自国中心のナショナリズムにもとづく）自国の被害を中心とした記述になっている－を獲得したと思います。中国の中高生は自国の教科書の南京大虐殺の扱い方に疑問を抱き、韓国の中高生は自国の教科書の記述には東北アジア史の視点が弱いと指摘するなど、自国の教科書の記述内容の問題点を考える討論になったことがわかります。

### 戦争責任問題、東北アジアの平和をめざして

【韓国A】若い人には責任がないと考えるのは理解できない。犯した罪は日本・韓国ともに出し合う

ことが必要だと思う。【韓国B】「知らなかった」からどうすべきかがわからなかったと思うが、今後どうすべきと考えるか。【日本A】事実をしっかりと知ることからはじめる。そのことからしかできないが責任を取ることにつながる。【日本B】私も忘れないということを考えていた。この館山で虐殺が起こらなかった理由は、人間同士の交流・友好があったからだと思う。このことをお互い知っておいてほしい。【中国A】平和とは侵略しないこと、自分の国を軍事力で守るということ。【中国B】国家間の実力差があるから平和は続かない。実力差がなくなれば侵略欲がなくなり平和になるのではないか。【韓国C】軍事力で平和を守るということは世界的に軍事力が拡大する危惧がうまれる。相対的にある国の軍事力が大きくなると侵略の可能性が出てくる。【中国C】現状で起きている戦争の背景には民族問題や覇権主義などがあると考えられる。平和を守るためにはアメリカ主導ではない世界的グループが必要だ。【韓国D】敵愾心があるから戦争になる。国家間の共同体の認識や連帯が必要だと思う。【日本C】世界は競争社会だから実力をそろえるのは大変なことだ。お互い他国の実情や努力を知ることが大切だ。【韓国E】日韓条約は韓国の指導者が目先の利益を求めて結んだもので国民の意識との間にズレがある。日中韓の個別的な利害にもとづくものでなく共同体的なものができるとよい。EUのようなのが理想的だ。【韓国F】韓国の米軍は北朝鮮を抑制するためという肯定的な意見が多いのは、米軍がいないと韓国が負けるからだ。【韓国G】両国は同じ一つの民族だ。北と南の対立の原因がアメリカにあり、今の韓国はアメリカの植民地になっているようだ。南北の統一をアメリカが邪魔していると思う。【日本D】交流を積み重ね、相互理解を深めることが平和につながる。【韓国H】「北」の同世代と会えない状況にあるのは残念。3国の交流で誤解が解けたように直接話し合うことの大切さを感じる。こうしたことを継続していけば平和のための条約がくれるだろう。【韓国I】東アジア3国の連帯意識をもち交流を続けよう。共に歴史認識を深めよう。日本は歴史問題について謝罪と解決の方法をさがすべきだ。

3国の中高生にとって、①戦争責任問題の基本的な知識が不十分であることは致し方ありません。と

くに日本では歴史和解は外交上の対応に限定してとらえられており、加害の事実の調査、謝罪、賠償、再侵略防止の措置など、徹底的な和解に国民の関心が向けられず教育の課題にさえていません。②東北アジアの安全保障について、中国の中学生は軍事力は必要であると述べつつ「アメリカ主導でない」国際組織を、また韓国中学生はEUを見本とする地域の「平和共同体」が必要だと述べています。日本の中学生からは日本国憲法や日米安保に関する発言はなく、国家・市民の安全保障の認識が弱いようです。③中国・韓国中学生は東北アジアにおけるアメリカ合衆国の軍事活動にたいして否定的な見方が強く、朝鮮の南北統一にとって足かせとなっており軍事的緊張を生じさせる存在として受けとめているようです。また韓国の参加者のなかには、北朝鮮の青少年との交流を強く望んでいる人たちがいることは明らかです。④平和構築の方法としては、キャンプの体験から直接対話と交流を強調していることが注目されます。

なによりも残念なことは、日本の中学生から日本国憲法の前文と9条にもとづく平和の理念や平和づくりの展望が語られなかったことです。

### まとめ—東北アジアの市民教育を展望して

3国キャンプの討論の背景には、冷戦体制下でのそれぞれの国家体制と教育システムがあり、日本の中学生たちの歴史認識や社会認識にとっては、日本国憲法体制と日米安保体制の並列した枠組みと受験教育が大きな影響を与えてきたといえます。戦争責任問題とアジアとの和解は棚上げされてきましたが、他方では近年の経済的關係や文化的つながりの急速な拡大は3国の青少年に共通する文化を育みつつあります。

そうした特徴のある討論空間で実施された3国中学生の討論の分析をふまえて、最後に国際討論の意義と東北アジアの未来づくりにかかわる教育の課題についてふれてみます。

①青少年キャンプの討論は、3国間というトライアングルの構造をもつことによって、国家を相対化する視点がより複層化される利点をもっています。

②3国の中学生は、歴史や社会について多様な見方・考え方を獲得して新たな問題意識をもち、自国中心のナショナリズムに対する冷静な態度や国家の枠組みを越えた思考や行動力をもつ可能性もどうか



巨大キャンパスに平和を描いた—3国の共同制作（2011年8月）  
えます。

③しかしながら、具体的な事実やデータにもとづく発言や国際的な価値基準に照らした発言がみられないこと、3国間の平和条約や戦後処理の現状理解が十分でないことなど、3国の中学生の「知識」の状況にも目を向ける必要があると考えます。

④侵略戦争に反対し抵抗した人びとについて、家族の戦争体験について語る中学生は3国共通して少なく、また日本国憲法を軸にして戦争や平和を語れないという日本の青少年の社会認識と歴史認識の現状をどのように考えるべきなのでしょう。歴史認識において侵略戦争の時代と戦後の時代が断絶されているのではないか。日本国憲法をくらしに活かす、世界の平和に活かす、そのような「学力」も育てられていないと思います。

2008年5月に開催された「9条世界会議」で「戦争を廃絶するための9条世界宣言」が採択されました。「宣言」には東北アジアの情勢が端的に示されています。

「日本は近隣諸国への戦争責任を果たしておらず、和解はいまだなされていない。東北アジアには、不安定な冷戦構造がいまだに残されている。」

報告者は、社会科教育において「東北アジア（アジア）の民衆の視点から侵略戦争をとらえること」や「東北アジア史の視点で日米安保、冷戦体制をとらえること」の観点が大切だと考えています。

そして中学生たちが21世紀の東北アジアの平和と経済のあり方を探求し提案できるような「東北アジアの市民を育成する政治教育」の開発も魅力ある課題であると思っています。

追記：2012年の日中韓青少年歴史体験キャンプは中国の大連市で開催されます。問い合わせは「子どもと教科書全国ネット21」まで。